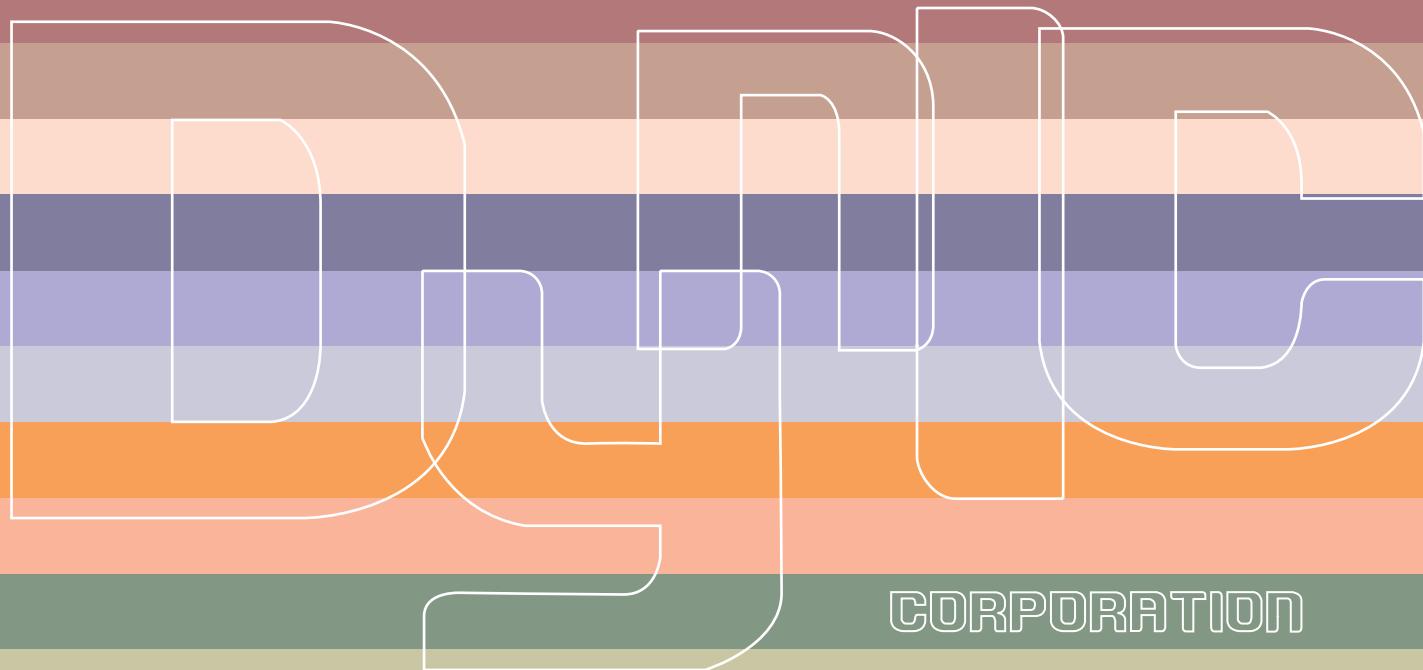




(証券コード 3551)

第153期中間報告書

平成27年4月1日～平成27年9月30日





株主の皆様には、平素から格別のご高配を賜り厚く御礼申しあげます。

当社グループ第153期中間期（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）の報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶を申しあげます。

第153期前半期の業績は、印字用熱転写リボンをはじめとする印刷情報関連事業においては、輸出比率が高く堅調に推移し、売上高は若干前年を上回りました。その一方で、当社埼玉工場の復旧にともなう製造固定費の負担等によって利益面では前年を下回り、連結ベースで別記のような結果となりました。

後半期の当社を取り巻く環境は、引き続き厳しい状況が予想されますが、更なる原価低減を推し進めるとともに、不織布製造ラインの完全復旧による利益改善を主柱に経営体質の強化に取り組んでまいります。

今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年12月

代表取締役社長 大石義夫

会社概要 (平成27年9月30日現在)

商号 ダイニック株式会社
DYNIC CORPORATION
〒615-0812
京都市右京区西京極大門町26
TEL 075-313-2111
FAX 075-313-2116
東京本社 〒105-0004
東京都港区新橋6-17-19(新御成門ビル)
TEL 03-5402-1811
FAX 03-5402-3146
ホームページ <http://www.dynic.co.jp>
創立 1919年8月18日
資本金 57億9,565万円
発行済株式総数 42,523千株
社員数 グループ合計 1,445名
営業所/事務所 (グループ含む) 札幌、東京、名古屋、京都、大阪、福岡、香港、台湾、シンガポール、米国、タイ、英国、中国、インドネシア
工場 (グループ含む) 滋賀、静岡、東京、埼玉、栃木、シンガポール、米国、タイ、英国、中国、インドネシア
関連会社 国内6社、海外11社
主要商品 ●文具紙工用品用クロス ●壁装材
●出版用クロス ●カーペット
●プリンターリボン ●自動車内装用資材
●銀行通帳用クロス ●各種フィルター
●フィルムコティング盤 ●不織布
●磁気関連製品 ●産業用ターポリン
●表示ラベル用素材 ●接着芯地
●名刺プリンタ ●各種ファンシー商品
●有機EL用水分除去シート ●食品包装材料
●バリア機能フィルム皿 ●紙管紙器

役員 (平成27年9月30日現在)

取締役会長	細田敏夫
代表取締役社長	大石義夫
常務取締役	公文弘
常務取締役	羽田章
常務取締役	君塚明
常務取締役	河野秀昭
取締役	眞住慎也
取締役	市川仁
取締役	木村博
取締役	北村圭正
取締役	小澤一雅
取締役	辻矢正次
常勤監査役	辻部明三
常勤監査役	福岡浩
監査役	大場将弘
監査役	角倉英司

(注) 取締役辻正次氏は社外取締役、また監査役大場将弘、角倉英司の両氏は社外監査役であります。

経営の実績 当第2四半期連結累計期間の概況

当第2四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年9月30日）におけるわが国経済は、円安・原油安等の影響による企業業績の改善、それに伴う雇用・所得環境の改善により、緩やかな回復基調が続きました。しかし、一方で中国経済の減速による影響が懸念され、先行き不透明な状況にあります。

このような状況のもと、当社グループにおきましては、引き続き収益改善への取り組みを継続してまいりました。

その結果、売上高は20,385百万円（前年同四半期比0.4%増）となりました。

利益面につきましては、営業利益293百万円（前年同四半期比5.8%減）、経常利益338百万円（前年同四半期比7.5%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は200百万円（前年同四半期比40.3%減）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、従来「その他」に含めておりました衣料用接着芯地事業については、管理区分を見直し、「住生活環境関連事業」に含めております。

また、セグメントの売上高には、セグメント間の内部売上高または振替高が含まれております。

■印刷情報関連事業

印刷被写体においては、出版・文具用途のクロス製品は大型企画も少なく、前年同四半期比減となりました。

産業用の品質表示用ラベルは、輸出が堅調に推移しました。

印字媒体においては、ラベル等の印字用熱転写リボンには国内・海外ともに堅調であり、前年同四半期比増となりました。

その他、帳票等のビジネスフォーム関連が堅調に推移し前年同四半期比増となりました。

その結果、当セグメントの売上高は8,877百万円（前年同四半期比2.9%減）、営業利益は673百万円（前年同四半期比50.6%増）となりました。

■住生活環境関連事業

壁装材は、前期後半の落ち込みから持ち直してきておりますが、前年同四半期比減となりました。

産業用ターポリンは、復興関連コンテナの一部が終了となり大幅に売上減となりました。

衣料用接着芯地は海外販売が低迷し、国内販売においても為替の原価への影響が大きく利益においても前年同四半期比減となりました。

不織布は、売上では前年同四半期比増となりましたが、当社埼玉工場の生産開始による製造固定費の負担が大きく、当第2四半期においては、利益を大きく圧迫しております。

その結果、当セグメントの売上高は7,078百万円（前年同四半期比2.7%増）、営業利益は25百万円（前年同四半期比85.4%減）となりました。

■包材関連事業

食品包材・蓋材は堅調に推移し、前年同四半期比増となりました。

医療用パップ剤用フィルム加工も堅調に推移し前年同四半期比増となりました。

その結果、当セグメントの売上高は3,085百万円（前年同四半期比0.8%増）、営業利益は53百万円（前年同四半期比60.3%減）となりました。

■その他

商品運送・保管は堅調に推移し、前年同四半期比増となりました。

ファンシー商品は手帳類の売上が好調で前年同四半期比増となりました。

その結果、売上高は1,953百万円（前年同四半期比5.1%増）、営業利益は99百万円（前年同四半期比9.6%減）となりました。

通期の見通し

下半期の経営環境は、国内経済は引き続き緩やかな回復を続けるものと思われませんが、中国経済の減速による影響が懸念され、依然として不透明な状況が予想されます。

こうした状況下、当社グループといたしましては、今期中に埼玉工場の不織布生産を完全復旧し、更なる原価低減に努めるとともに、高機能・高付加価値商品の開発を進め、業績向上に努めてまいります。

当社グループにおいては、通期でのグループ業績見通しは大きく変動しないものと考えており、以下のとおり見込んでおります。

			連 結 (対前年比)	
			百万円	%
売	上	高	41,000	(△0.1)
営	業	利 益	900	(37.2)
経	常	利 益	900	(3.0)
親会社株主に帰属する当期純利益			500	(△41.4)

財務諸表の概要（連結）

四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

■資産の部		
科 目	前 期 平成27年3月31日現在	当第2四半期 平成27年9月30日現在
流動資産	21,842	21,960
現金及び預金	3,469	3,326
受取手形及び売掛金	10,131	10,094
たな卸資産	7,142	7,414
繰延税金資産	606	592
その他の流動資産	599	639
貸倒引当金	△105	△105
固定資産	29,882	30,721
有形固定資産	17,549	18,851
建物及び構築物	3,089	4,393
機械装置及び運搬具	1,723	2,115
土地	10,260	10,274
その他の有形固定資産	2,477	2,069
無形固定資産	36	36
投資その他の資産	12,297	11,834
投資有価証券	8,527	7,811
繰延税金資産	224	228
その他の投資	3,644	3,893
貸倒引当金	△98	△98
資産合計	51,724	52,681

■負債の部		
科 目	前 期 平成27年3月31日現在	当第2四半期 平成27年9月30日現在
流動負債	20,213	20,633
支払手形及び買掛金	8,437	7,896
短期借入金	8,661	9,752
未払法人税等	90	227
設備関係支払手形	619	891
その他の流動負債	2,406	1,867
固定負債	13,108	13,958
長期借入金	6,787	8,095
退職給付に係る負債	1,839	1,755
再評価に係る繰延税金負債	1,368	1,368
その他の固定負債	3,114	2,740
負債合計	33,321	34,591

■純資産の部		
科 目	前 期 平成27年3月31日現在	当第2四半期 平成27年9月30日現在
株主資本	12,685	12,673
資本金	5,796	5,796
資本剰余金	945	945
利益剰余金	5,974	5,963
自己株式	△30	△31
その他の包括利益累計額	5,439	5,150
その他有価証券評価差額金	2,482	2,091
土地再評価差額金	2,729	2,729
為替換算調整勘定	99	210
退職給付に係る調整累計額	129	120
非支配株主持分	279	267
純資産合計	18,403	18,090
負債・純資産合計	51,724	52,681

■ 四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

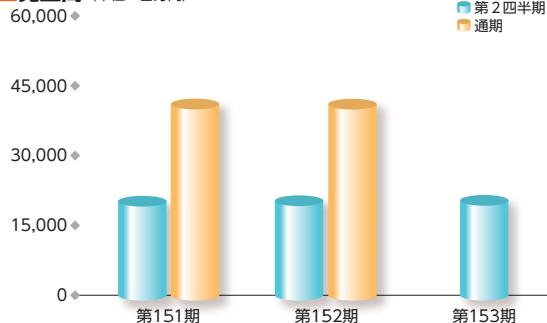
科 目	前第 2 四半期 平成26年4月1日～ 平成26年9月30日	当第 2 四半期 平成27年4月1日～ 平成27年9月30日
売上高	20,300	20,385
売上原価	16,639	16,728
売上総利益	3,661	3,657
販売費及び一般管理費	3,350	3,364
営業利益	311	293
営業外収益	295	245
営業外費用	240	200
経常利益	366	338
特別利益	365	114
特別損失	229	50
税金等調整前四半期純利益	502	402
法人税等	177	218
四半期純利益	325	184
非支配株主に帰属する四半期純損失 (△)	△11	△16
親会社株主に帰属する四半期純利益	336	200

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

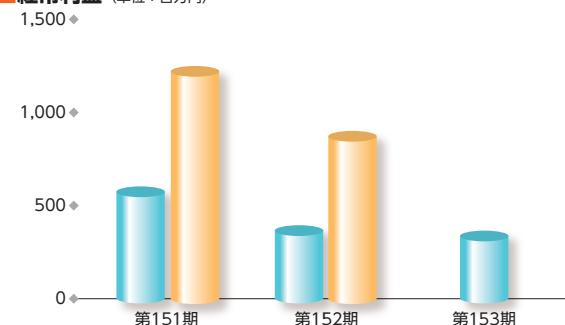
(単位：百万円)

科 目	前第 2 四半期 平成26年4月1日～ 平成26年9月30日	当第 2 四半期 平成27年4月1日～ 平成27年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	337	△838
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,437	△1,298
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,758	2,076
現金及び現金同等物に係る換算差額	△25	18
現金及び現金同等物の増減額	633	△42
現金及び現金同等物の期首残高	2,614	3,071
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,247	3,029

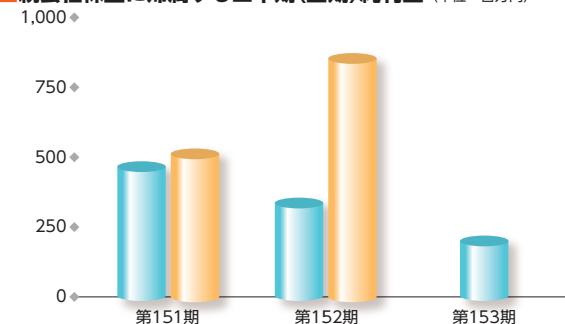
■ 売上高 (単位：百万円)



■ 経常利益 (単位：百万円)



■ 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (単位：百万円)



●新設クリーンルームで食品用包材フィルムのエンボス加工

滋賀工場の特殊材料加工部では、主にパップ剤の離型フィルムへのエンボス加工を行っていましたが、新設したクリーンルームの新エンボス機では、新たにパンやデザート等の食品用包材向けへの展開を図っています。更には最新鋭の欠点検知器を活かしたエンボス機を活用して、他分野への事業展開も図っていききたいと思います。



新設したクリーンルーム

●装幀用クロスのパッケージ用途への展開を強化

書籍や文具紙工品の用途に使用されてきた当社の装幀用クロスは、パッケージ用途にも使用されています。特に高級菓子やCD、DVD等のパッケージには、他社品との差別化を図るために、当社の装幀用クロスが採用されます。当社では、販促用のオリジナルパッケージサンプル等を用いてパッケージ用途の受注増加を図っています。また、平成26年4月から公益社団法人日本パッケージデザイン協会に加入し、パッケージ業界への展開を更に強化しています。



販促用オリジナルパッケージサンプル

● オンデマンド箔押機 「DC-1」の機能増加

平成27年9月11日(金)から16日(水)まで東京ビッグサイトで行われた「IGAS2015」に、オンデマンド箔押機「DC-1」を展示しました。従来機能の【トナー部分に箔を転写する箔押加工】と【透明樹脂を全面に転写し光沢感を付与するニス加工】の二つの加工に加え、今回新たに【ホログラム加工】を参考出品し、1台で3通りの加工が可能になった事により大きな反響を得ました。



展示会でのデモンストレーション

● アルミ箔加工蓋材、用途に合わせた豊富なラインナップで新規受注獲得

ヨーグルト等の乳製品やプリン等のデザートはシーズン毎に新商品が発売され、使用される蓋材も、そのたび毎に検討されます。当社では、蓋材の接着剤となるホットメルトを開発することによって、様々な材質の容器に対応した蓋材を提供しています。また、剥離強度レベルの異なる豊富なラインナップが評価を得て、シーズン毎の新規受注を多数獲得しています。



王子工場 ホットメルト加工機

